

学習会『原発問題を学ぼう』を開催

福島に学び 福島から考える

新潟県医労連青年部は2月23日、学習会を新潟市・駅南貸会議室 KENTO で開催し、5単組11名が参加しました。今回のテーマは「原発問題」。講師の桑原三恵さん（いのち・原発を考える新潟女性の会）から、東北電力・巻原発（旧巻町、現在の新潟市西蒲区）の建設反対運動の経験や原発をめぐる最新の状況について講演をしていただきました。



巻原発から現在まで 幅広く学習しました

町民が主人公の運動

1969年6月、新潟日報のスクープによって表面化した巻原発の建設計画。すぐに住民による反対運動がはじまりました。桑原さんが運動に参加したのは1981年から。「子どもを原発の危険から守りたい」という思いからだったそうです。当時の巻町では、女性が意見することなど許されないような風潮がありました。「原発反対」と声に出せない女性たちに意思表示をしてもらおうとはじめた「折り鶴」の取り組みは、5ヶ月で約13万羽を集めました。他にも、募集した標語を電信柱に掲示するなど、住民参加の活動を展開し、「原発計画を止める主人公は巻町民」とアピールを続けました。住民投票では反対派が勝利。2003年12月、東北電力は計画を断念しました。



夕食交流会の様子

私たちにできることを

原発をめぐる最新の状況では、福島第一原発や安倍政権のねらい、柏崎刈羽原発についてお話しいただきました。

桑原さんは、「態勢に流されるのではなく、社会を変える主人公として、私たちにできることがある」と呼びかけました。最後に、福島県二本松市でスクリーニングを受ける赤ちゃんの写真を紹介し、「この事態を避けるために今まで運動をしてきたのに、守ることができなかった」と語りました。まもなく、原発事故から2年です。

たのに、守ることができなかった」と語りました。まもなく、原発事故から2年です。

活動交流集会in村上 5/25(土)~26(日)に決定!